

**令和7年度
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書**
(令和6年度事業)

令和7年9月

向日市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1	趣旨	1
2	点検・評価の対象及び方法	1
II	教育委員会の活動状況（令和6年度）	2
1	教育委員会構成員	2
2	教育委員会の開催状況 13回	3
3	教育委員会委員の主な活動（教育長のみが出席したものを除く）	7
III	事業評価シート（令和6年度事業）	8
1	豊かな学びの創造と確かな学力の育成	9
2	豊かな人間性の育成と多様性の尊重	14
3	健やかな身体の育成	19
4	学びを支える安心・安全な教育環境の充実	22
5	学校・家庭・地域の連携・協働による学校の教育力の向上	26
6	生涯学習環境の充実	28
7	家庭・地域社会の教育力の向上	39
8	安心して産み育てる体制づくり	42
9	スポーツ活動の推進	45
10	多様性を認め合う社会の実現	47
11	歴史・文化資源の整備と活用	49
IV	外部評価委員の総評	54

I はじめに

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされております。

また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされております。

このため、本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様への説明責任を果たすため、事務事業の実績について取りまとめ、成果や課題について検証しました。

検証にあたっては、学識経験者である市教育委員会外部評価委員の方のご協力を得て、様々な意見・助言等をいただきましたので、その結果を報告します。

2 点検・評価の対象及び方法

教育基本法第 17 条第 2 項に基づく、本市における「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」に位置づけている「第 2 次ふるさと向日市創生計画」で定める重点施策や取組事業を踏まえ、主要な 11 施策 43 事業を外部評価対象事業とし、委員の方から施策ごとに様々な意見・助言等をいただきました。

(1) 点検・評価委員

氏 名	役職等
前坂 あや子	元高知県教育委員会事務局就職アドバイザー
松宮 功	元大阪国際大学短期大学部教授

(2) 点検・評価会議開催状況

第 1 回点検・評価会議（令和 7 年 7 月 17 日開催）

第 2 回点検・評価会議（令和 7 年 7 月 18 日開催）

第 3 回点検・評価会議（令和 7 年 8 月 22 日開催）

Ⅱ 教育委員会の活動状況（令和6年度）

1 教育委員会構成員

役 職	氏 名	就 任 日	任 期 満 了 日
教育長	山本 真也	令和5年7月1日	令和9年6月30日
教育長 職務代理者	松本 克彦	平成20年10月1日	令和10年9月30日
委 員	流石 智子	平成27年10月1日	令和9年9月30日
委 員	中野 緑	平成30年10月1日	令和8年9月30日
委 員	畠山 亮	令和3年12月10日	令和7年12月9日

（1）教育長の異動

令和6年6月30日で山本教育長が任期満了となり、7月1日付けで再任された。

（2）委員の異動

令和6年9月30日付けで松本委員が任期満了となり、10月1日付けで再任された。

2 教育委員会の開催状況 13 回

回	開催日	開始時刻	付議案件等
令和 6 年 第 6 回	4 月 24 日(水)	午前10時00分～	【報告事項】 ・ 令和 6 年度小中学校の主な新規事業等について ・ 令和 6 年度向日市教育相談体制について ・ 小中学校における内科健康診断について
第 7 回	5 月 16 日(木)	午前10時30分～	【議案第 8 号】 向日市議会令和 6 年第 2 回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・ 令和 6 年度向日市一般会計補正予算について 【報告事項】 ・ 年間入館者数等について（図書館・天文館・文化資料館・文教課） ・ 令和 6 年度向日市留守家庭児童会及び民間放課後児童クラブ入会児童数について ・ 学校訪問について ・ 令和 5 年度いじめ調査の概要について
第 8 回	7 月 3 日(水)	午前9時30分～	【報告事項】 ・ 向日市議会令和 6 年第 2 回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・ 向日市立小中学校の修学旅行等宿泊を伴う学校行事の実施状況について ・ 令和 6 年度留守家庭児童会夏季入会児童数について ・ 物集女城跡史跡指定に係る答申について ・ 令和 6 年度物集女車塚古墳石室一般公開について
第 9 回	7 月 23 日(火)	午後5時50分～	【議案第 9 号】 いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱について
第 10 回	8 月 20 日(火)	午前10時00分～	【議案第 10 号】 向日市議会令和 6 年第 3 回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・ 令和 6 年度向日市一般会計補正予算について ・ 令和 5 年度向日市一般会計決算について 【報告事項】 ・ 向日市民のスポーツに関する意識調査について ・ 令和 6 年度中学校総合体育大会結果について

回	開催日	開始時刻	付議案件等
第 11 回	8月27日(火)	午前10時00分～	【議案第 11 号】 令和 7 年度に使用する中学校教科用図書の採択について 【議案第 12 号】 令和 7 年度に使用する学校教育法附則第 9 条に規定される教科用図書の採択について
第 12 回	9月26日(木)	午後3時00分～	【議案第 13 号】 向日市議会令和 6 年第 3 回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・財産（小学校教師用指導書等）の取得について ・財産（小学校教師用教科書及び指導書）の取得について 【議案第 14 号】 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について 【報告事項】 ・向日市議会令和 6 年第 3 回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・令和 6 年度第 1 回いじめ調査の概要について ・第 21 回向日市中学生英語スピーチ大会について ・令和 6 年度職場体験について
第 13 回	10月29日(火)	午前9時30分～	【議案第 15 号】 向日市小中学校個別計画の改訂（案）について 【報告事項】 令和 6 年度向日市立小中学校における体育大会の実施状況について

回	開催日	開始時刻	付議案件等
第 14 回	12 月 24 日(火)	午前10時00分～	【議案第 16 号】 向日市文化財保護審議会委員の任命について 【報告事項】 ・向日市議会令和 6 年第 4 回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・令和 7 年度向日市の教育（指導の重点）の改訂について ・令和 7 年度通学区の弾力化制度実施結果について ・令和 5 年度新体力テスト結果について ・第 21 回向日市中学生英語スピーチ大会結果について ・令和 7 年向日市はたちの集いについて ・向日市民のスポーツに関する意識調査結果報告について ・向日庵（旧寿岳家住宅）の国登録有形文化財への登録に係る答申について ・第 23 回小中学生読書感想文コンクールについて ・各種表彰について
令和 7 年 第 1 回	1 月 30 日(木)	午前10時00分～	【報告事項】 ・令和 7 年度向日市の教育（指導の重点）の改訂について ・令和 7 年向日市はたちの集いについて ・物集女城跡国史跡記念シンポジウムについて
第 2 回	2 月 13 日(木)	午前9時00分～	【議案第 1 号】 向日市部活動指導員設置規則の制定について 【議案第 2 号】 向日市議会令和 7 年第 1 回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・令和 6 年度向日市一般会計補正予算について ・令和 7 年度向日市一般会計予算について 【報告事項】 ・向日市部活動指導方針の改訂について ・令和 7 年度向日市の教育（指導の重点）の改訂について ・令和 6 年度第 2 回いじめ調査の概要について ・各種表彰について
第 3 回	2 月 27 日(木)	午前10時00分～	【議案第 3 号】 人事に関することについて

回	開催日	開始時刻	付議案件等
第 4 回	3 月 25 日(火)	午前9時30分～	【議案第 4 号】 人事に関する事について 【議案第 5 号】 向日市社会教育委員の委嘱について 【議案第 6 号】 向日市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 【議案第 7 号】 向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則及び向日市文化資料館管理運営規則の一部を改正する規則について 【議案第 8 号】 向日市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について 【議案第 9 号】 向日市天文館の事業開催時の入館料に関する取扱要綱の制定について 【議案第 10 号】 令和 7 年度向日市の教育について 【報告事項】 ・向日市議会令和 7 年第 1 回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・向日市部活動地域移行懇談会報告書について ・向日庵（旧寿岳家住宅）の国有形文化財への登録について ・寺戸大塚古墳第 15 次調査現地説明会の開催について

3 教育委員会委員の主な活動（教育長のみが出席したものを除く）

（1）教育委員会関係行事への参加

- 小中学校入学式・卒業式
- 小中学校訪問
- 小中学校体育大会
- 小中学校公開授業、研究発表会
- 中学生英語スピーチ大会
- 向日市はたちの集い（成人式）
- 洛南高等学校附属小学校卒業式
- 京都府立向陽高等学校入学式、卒業式
- 京都西山高等学校入学式、卒業式
- 向日が丘支援学校卒業式
- 西ノ岡中学校創立五十周年記念式典 ほか

（2）研修・協議会等

- 乙訓教育委員会連合会教育委員研修会
- 乙訓教育委員会連合会定期総会
- 京都府市町村教育委員会連合会定期総会・研修会
- 京都府内市町（組合）教育委員会研修会
- 近畿市町村教育委員会研修大会（オンライン）
- 乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会
- 市町村教育委員会研究協議会

Ⅲ 事業評価シート（令和6年度事業）

施策番号	1
施策名	豊かな学びの創造と確かな学力の育成

施策の基本方向

○児童生徒が学ぶことの意義や楽しさを感じられる多様な学びの実現に努めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、確かな学力をはぐくむ教育を推進する。

事業名	研究指定
事業概要 実績	各学校は、京都府教育委員会や京都府乙訓教育局、本市教育委員会の研究指定を受け、児童生徒の実情に応じて実践的に授業改善や学習環境の整備等を行い、学力向上に取り組んだ。 ○文部科学省指定 「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」 (児童生徒へのデジタル教科書の配布) ・向陽小学校・第3向陽小学校・第6向陽小学校(算数・英語) ・第2向陽小学校・第4向陽小学校・第5向陽小学校(英語のみ) ・勝山中学校(数学・英語)、西ノ岡中学校・寺戸中学校(英語のみ) ○京都府教育委員会指定「不登校児童生徒支援システム構築事業」(2/3)※ ※指定期間3年中2年目を示す。以下同じ。 ・勝山中学校ブロック(勝山中学校・向陽小学校・第5向陽小学校) ○京都府教育委員会指定「未来の担い手育成プログラム研究校」・京都府乙訓教育局指定「学力充実指定校」・向日市教育委員会指定(3/3) ・西ノ岡中学校 「生涯にわたり学び続ける生徒の育成」～他者と協働して課題解決に挑む～ (企業等から出題される「正解のない問い」を解決しようとする、課題解決型学習の取組) 公開授業1月29日 ○京都府教育委員会指定「京都府学力・学習状況調査 ～学びのパスポート～」 活用推進事業(1/3) ・実践研究指定校：西ノ岡中学校ブロック(西ノ岡中学校・第2向陽小学校・第6向陽小学校) ○向日市教育委員会指定 ①向陽小学校 「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり」 ～Grow the Cast 未来の主役を育てる～ 公開授業2月7日 ②第2向陽小学校 「子どもたちの問いを大切にした算数授業の確立」 ～子どもの見取りを生かしたより深い学びの追求～ 公開授業11月25日

③第3 向陽小学校

「自ら考え、仲間と共に、学び続ける力の育成」

～聴き合い、伝え合う集団の中で～

公開授業 1 月 31 日

④第4 向陽小学校

「ここをつなぐ 学びをつなげる」

～みんなでわくわく「考えよう・やってみよう」～

公開授業 11 月 8 日

⑤第5 向陽小学校

「『楽しい』『学び続ける』社会科の創造」

～地域発「めざせ探究人」プロジェクト～

公開授業 11 月 14 日

⑥第6 向陽小学校

「人とのつながりを通して主体的な学び、新たな価値を作り出すことのできる子どもの育成」

公開授業 1 月 24 日

⑦勝山中学校

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて」

公開授業 1 月 17 日

⑧寺戸中学校

「自分の考えをもち、表現し合える生徒の育成」

～主体的に学ぶ生徒の育成～

公開授業 1 月 30 日

○ICTを活用した授業の研究

①GIGAスクールプロジェクトチーム（PT）

「GIGAスクール構想」に基づき、整備された児童生徒1人1台タブレット端末の利活用促進に向けて、GIGAスクールプロジェクトチーム（PT）会議を開催し、タブレット端末を使った効果的な実践について交流・協議を行った。

・第1回（5月14日）：令和5年度活動報告

令和6年度活動計画

・第2回（7月1日）：ICTを活用した授業の見学（第4向陽小学校）

授業における効果的なタブレット活用について

・第3回（11月5日）：ICTを活用した授業の見学（第2向陽小学校）

授業における効果的なタブレット活用について

・第4回（2月20日）：「令和6年度京都府エバンジェリスト育成研修」伝達講習会

令和6年度ICTに関するアンケート調査の結果について

②ICTを効果的に授業で活用している教員の授業を参観し、個別学習や協働学習における効果的な活用方法について研修を行った。

③教員及び児童生徒（小4、小6、中3）を対象にアンケート調査を実施し、教員のICT活用指導力及び児童生徒の情報活用能力について、各学校の状況等を把握し、より効果的な研修の在り方や体系的な情報活用能力の育成に向けた指導の在り方などについて協議を行った。

	④全教員と児童生徒（小5、中2）を対象にタブレット利活用調査を実施し、各学校の利活用状況等を把握するとともに、活用に向けた効果的な取組や実践事例等について情報交流を行った。
担当課	学校教育課

事業名	学力テストの実施
事業概要 実績	各種学力テストを実施し、各学校は児童生徒の学習の定着状況を把握するとともに結果を分析し、授業改善につなげた。 ○（京都府）京都府学力・学習状況調査「学びのパスポート」 小学4年生～中学3年生 ○（文科省）全国学力・学習状況調査 小学6年生、中学3年生
担当課	学校教育課

事業名	子ども未来づくり支援事業（体験活動）										
事業概要 実績	○児童生徒の体験活動 各学校においては、それぞれの学校の実態や地域の特色を踏まえ、伝統や文化についての児童生徒の体験的な学習や、知的好奇心をはぐくむ学習などを実施した。 （目的別体験活動件数） <table border="0"> <tr> <td>①学力向上（習字、プログラミング、震災学習など）</td><td>9件（小学校9件、中学校0件）</td></tr> <tr> <td>②体験活動（着衣泳、剪画、農業など）</td><td>8件（小学校8件、中学校0件）</td></tr> <tr> <td>③伝統文化（琴、しめ縄、能楽鑑賞など）</td><td>12件（小学校12件、中学校0件）</td></tr> <tr> <td>④健康安全（防煙、いのちの学習など）</td><td>4件（小学校1件、中学校3件）</td></tr> <tr> <td>⑤キャリア（社会で働く人から学ぶ）</td><td>3件（小学校0件、中学校3件）</td></tr> </table>	①学力向上（習字、プログラミング、震災学習など）	9件（小学校9件、中学校0件）	②体験活動（着衣泳、剪画、農業など）	8件（小学校8件、中学校0件）	③伝統文化（琴、しめ縄、能楽鑑賞など）	12件（小学校12件、中学校0件）	④健康安全（防煙、いのちの学習など）	4件（小学校1件、中学校3件）	⑤キャリア（社会で働く人から学ぶ）	3件（小学校0件、中学校3件）
①学力向上（習字、プログラミング、震災学習など）	9件（小学校9件、中学校0件）										
②体験活動（着衣泳、剪画、農業など）	8件（小学校8件、中学校0件）										
③伝統文化（琴、しめ縄、能楽鑑賞など）	12件（小学校12件、中学校0件）										
④健康安全（防煙、いのちの学習など）	4件（小学校1件、中学校3件）										
⑤キャリア（社会で働く人から学ぶ）	3件（小学校0件、中学校3件）										
担当課	学校教育課										

事業名	ふるさと学習
事業概要 実績	各学校では、教育課程での位置づけを再確認し、校外での体験活動や地域の方々との交流を実施した。 ○小学校では、生活科や社会科と関連させ、総合的な学習の時間に実施した。 1年生・2年生：「向日市にふれる」町探検（校区の公園や図書館等の見学）を通じた学習 3年生・4年生：「向日市を知る」特産物（なす、たけのこ等）や校区内の特色（お寺・踊り・用水路等）についての学習、簡単な歴史についての学習 5年生・6年生：「向日市を学ぶ」歴史・文化や農作物等についての学習 ※特徴的な取組：5向小6年生 文化財を生かした向日市の魅力発信（向日市文化資料館見学、幼児や地域住民を対象とした向日市の魅力再発見イベントの開催など） ○中学校では総合的な学習の時間において実施した。 勝山中1年生：向日市の史跡や特産品について調べ学習を行い、発表会交流会を行った。 3年生：地域活性化を目指し、「環境にやさしいイベントの開催」や「竹の径の宣伝」など中学生の目線にたった具体的な提案を直接市長に行った。

	西ノ岡中 2 年生：「向日市民の生活をより良くしよう！」をテーマに統計資料などを基に、向日市への提案書を作成した。 寺戸中 2 年生：「第 8 回向日市ふるさと W E B 検定」に向けて向日市の歴史や地理等について学習を行い、過去問題を解く等知識を獲得した。 全中学校：「第 8 回向日市ふるさと W E B 検定」受検 (勝山 1 年生、西ノ岡 2 年生、寺戸 2 年生) ○ふるさと学習成果展 児童生徒が地域ならではの特色に関心を高め、ふるさとへの愛着をはぐくむとともに、授業で取り組んだ学習成果（新聞、プレゼンテーション資料・動画等）を校外に展示し、本市の特色ある教育活動を広く市民に知ってもらい、本市への関心を高める機会とした。 ・ 日 時：令和 6 年 12 月 25 日から令和 7 年 1 月 13 日まで ・ 場 所：向日市文化資料館 2 階会議室 ・ 参加校：小学校（向陽、2 向、3 向、5 向）、中学校（西ノ岡、寺戸）
担当課	学校教育課

施策の成果と課題	
【成果】 ○各学校では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に向け、児童生徒の実態に応じた研究テーマを設定し、効果的な指導方法や指導体制を工夫するなど研究を進めた。 ○G I G A スクールプロジェクトチーム（P T）会議のメンバーを中心に、児童生徒が I C T を活用する授業を参観し、「効果的な I C T 活用とは何か」について協議した。また、教員の I C T 活用指導力、児童生徒の情報活用能力、タブレット利活用状況等のアンケート調査を実施し、それぞれの実態を把握し、今後の研修や指導の在り方に関する協議や、効果的な実践事例等の情報交流を深めた。 ○全国学力・学習状況調査や京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～を実施し、それらの結果を踏まえ教員は把握した学力課題等について学力向上対策会議や各校内研修において共有し、授業改善につなげた。 ○各学校は、児童生徒の体験活動について、教育課程の計画を見直し、その上で実施することができた。 ○ふるさと学習については、地域の「郷土」「人」「もの」のつながりを大切にしたい取組を進めることができた。 ○5 向小では引き続き向日市を題材として課題解決型学習に取り組み、ふるさと向日市への関心を一層高めることができた。 ○ふるさと学習成果展では、今年度も各学校の歴史や地域に関わる学習の発信の場として取り組んだ。市民からは「子どもたちのふるさと学習の発信力に驚いた。」「改めてふるさと向日市のよさを感じることができた。」などの声を聴くことができ、児童生徒のふるさと学習の成果について広く周知することができた。 【課題】 ○I C T の利活用については、教員間や学校間において差があるため、様々なアンケート結果や利活用状況等を踏まえて、G I G A スクールプロジェクトチーム会議を一層活性化させ、全ての指導者において I C T を活用した授業改善が図れるよう努めたい。	

- 各学力テストの結果は、各教科とも概ね国や京都府平均よりやや高い、または、平均であったが、学びのパスポートにおいては、中学１・２年生の国語と数学が不十分であった。小中学校の授業の質の向上を図るため、今年度も各校教務主任、学力向上に係る教職員対象の会議を実施し、学習指導要領の趣旨理解とともに具体的な授業改善の視点を共通理解することを通して、授業力の向上を図る必要がある。その上で、授業参観を中心とした研修を実施する。
- ふるさと学習のさらなる充実を図るため、向日市の特色や魅力について、まずは教職員対象の研修会を継続的に実施し、地域や向日市の特色について知る必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 市立小中学校全校がそれぞれ意欲的な内容をテーマに研究指定を取得している。それによって、授業改善に取り組み、子ども達の深い学びにつながっていることを評価する。各学校が自ら選んだテーマを通じて、今後も質の高い授業の実現に期待する。
- ＩＣＴに関するアンケート調査の質問票を確認したところ、国や府の結果とも比較可能な調査内容となっている。ＩＣＴの活用によって、多様なアプローチが可能となり、獲得できることが増えるということが大切な視点である。従って、使うこと自体が目的化しないよう、授業の研究・改善を継続していただきたい。
- コロナ禍が明け、体験活動が行いやすい環境となってきた。体験活動は学齢期の学びに必要なことのため教育委員会も各学校の意欲的な取組を支援するとともに、伝統文化や農業等の体験活動を支える専門的な知識を持った地域の人材発掘にも努めていただきたい。
- ふるさと学習は、子どもたちが地域に根ざした資源を発見・発信するよい機会となる。特に、学年や学校によってテーマ性が異なり魅力的な内容となっていることは評価できる。また、学習成果を広める機会（学習成果展）があることも素晴らしい。
一方、ふるさと学習の充実を図るため、まず教職員が学ぶ必要があると捉えていることは重要である。向日市の魅力や特色について、教職員に研修を実施されていることも評価する。
地域資源は、新たなものも発見されている。生涯学習分野とも連携しながら内容の充実を図っていただきたい。

施策番号	2
施策名	豊かな人間性の育成と多様性の尊重

施策の基本方向 ○一人一人の尊厳と人権が尊重され、個性の違いや多様性を認め合い、主体的に行動し、自らの能力を最大限に発揮することができる教育を推進する。 ○多様な考えや価値観に触れることを通じて、人を思いやり尊重する心を育てるとともに、自らの考えや思いを伝えながら感性や情緒、創造力や表現力をはぐくむ。 ○すべての児童生徒が安心して通うことができ、楽しく過ごすことができる学校づくりに取り組む。

事業名	「特別の教科 道徳」実践交流
事業概要 実績	参加者は公開された授業を参観し、事後研究会において授業改善の視点を明確にした協議を行った。 ○授業公開 第3向陽小学校（1年1組）参加者数 15人 ・内容項目：A-1 善悪の判断 自律 自由と責任 ・教材名：「やめろよ」
担当課	学校教育課

事業名	人権教育
事業概要 実績	あらゆる人権問題に対し、豊かな人権感覚を持ち、幸せな社会生活を営めるよう、人権意識の高揚につながる取組を行った。加えて、新型コロナウイルス感染者への差別や偏見防止に向け指導を行った。 ○人権教育の授業数（各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間） 小学校 17.9 時間（小1～小6における各学年の年間授業時間の平均） 中学校 18.6 時間（中1～中3における各学年の年間授業時間の平均） ○教職員研修 ①向日市教職員研修会（集合形式で実施）参加者数 79人 ・日時：令和6年8月19日（月） ・講師：崇仁発信実行委員会 代表 藤尾 まさよ 氏 「差別の歴史と現状から見る同和問題」 ②各学校の校内研修会 同和問題（部落差別）、特別支援教育、性的指向・性自認、「多様な性」についての理解、子どもの貧困とヤングケアラー、SNSやインターネットによる犯罪や被害など、人権問題等をテーマとして実施 ○人権教育に関する参観授業 全小中学校で実施
担当課	学校教育課

事業名	特別支援教育の充実
事業概要 実績	○向日市教育支援委員会において、小中学校に在籍または就学予定の幼児、児童生徒について、障がいや特性等に配慮した適切な就学について協議し、相談及び指導を行った。 ・相談件数 104 件（就学前 36 件、小学校 48 件、中学校 20 件） ○各校の状況に応じ、特別支援教育支援員を配置し、教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援を行った。 ・全小中学校に配置 小学校 25 人、中学校 3 人 ○特別支援教育就学奨励費を支給し、特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図った。 給付内訳（給付対象人数：小学校 106 人、中学校 24 人） ・学用品等購入費（小学校 106 人、中学校 24 人） ・給食費（小学校 106 人、中学校 24 人） ・校外活動費（宿泊あり・宿泊なし）（小学校 14 人・106 人、中学校 0 人・24 人） ・修学旅行費（小学校 14 人、中学校 6 人） ・体育実技用具、柔道（中学校 4 人） ・新入学児童生徒学用品費等（小学校 20 人、中学校 9 人）
担当課	学校教育課

事業名	職場体験活動
事業概要 実績	中学 2 年生を対象に、望ましい職業観や勤労観等を身につけさせるため、地域社会における様々な職種の職場体験を実施できた。 ○令和 2 年度から 4 年間実施できていなかったが、令和 6 年度は、91 の事業所に協力を得て、4 年ぶりに職場体験活動を実施することができた。
担当課	学校教育課

事業名	安心・安全教育				
事業概要 実 績	○「向日市いじめ防止基本方針」に基づき、各小中学校においては「いじめ防止基本方針」を策定するとともに、校務分掌にいじめ防止委員会を位置付け、日常的にいじめの早期発見と早期対応に努めた。				
	○年 2 回のいじめ調査（アンケートと個別に聞き取り）を実施した。 （1 回目：7 月、2 回目：11 月）				
	※各調査後、3 か月後を目安に追跡調査を実施した。				
	いじめ調査の認知・解消件数（延べ件数）				
	年度	令和 5 年度		令和 6 年度	
	項 目	認知	解消	認知	解消
	小学校	1, 141	1, 084	1, 112	1, 024
中学校	185	141	214	178	
合 計	1, 326	1, 225	1, 326	1, 202	

	○8月と2月に向日市いじめ防止対策推進委員会（臨床心理士や弁護士、小児科医等が委員）を開催し、いじめ調査結果を基にいじめの防止等に向けた方策について協議した。 ○不登校数《年間30日以上欠席》（ ）内は令和5年度 小学校 2.15%（2.12%） 中学校 6.41%（6.34%） ○交通安全教室の実施 ①小学校：「交通安全教室」 向陽小1・2年生、2向小1・2・3年生 「自転車安全教室」2向小4年生、5向小4年生 ②中学校：「交通安全教室」西ノ岡中学校1年生 「自転車安全教室」寺戸中学校
担当課	学校教育課

事業名	教育相談等
事業概要 実績	○教育支援センター「ひまわり広場」の充実 市内の不登校の児童生徒を対象に、主体性や社会性をはぐくみ、学校への復帰や社会的自立に向けた支援を行う「ひまわり広場」の活動を充実させた。 ・204日開設（週5日間 午前9時30分から正午まで） ・指導員15人（月曜日～金曜日 3人体制） ・登録児童生徒23人（小学校13人、中学校9人） ・通室児童生徒数 平均7.25人／日 ○教育相談事業の実施 来所による相談、電話による相談、学校への巡回教育相談を実施した。とりわけ来所相談はニーズが高く、1人の臨床心理士が週2回、児童生徒やその保護者等の教育相談に応じた。 （各相談件数） ・来所教育相談件数（市役所）延べ423件 ・電話教育相談件数 延べ58件 ・学校への巡回教育相談（全小中学校）延べ719件 ○心の相談サポーター事業 不登校の未然防止や早期解決を図るため、登校できるが教室には入りにくい不登校傾向の児童生徒を対象に、学習支援や教育相談等を行い、児童生徒の悩みや不安、ストレス等の解消を図り、心にゆとりを持てるような環境を提供した。 ・臨床心理学を学ぶ大学院生13人 ・配置校 小学校6校、中学校2校（各校週1日～4日） ・対応件数（延べ）2,004件
担当課	学校教育課

事業名	校種間連携の充実
事業概要 実績	○幼保小や小中連携として、幼児と児童、児童と生徒の交流及び教職員対象の研修を行った。 ①児童生徒 ・部活動体験：勝山中学校ブロック、西ノ岡中学校ブロック、寺戸中学校ブロック ・中学校体育大会見学：勝山中学校ブロック ②教職員 ・合同研修会（学力分析、生徒指導など） ・合同授業研究会（公開授業の参観、事後研究など） ※参加人数 勝山ブロック （向陽小：106人 5向小：128人 勝山中：111人） 西ノ岡ブロック （2向小：77人 6向小：74人 西ノ岡中学校：85人） 寺戸ブロック （3向小：74人 4向小：80人 寺戸中学校：44人） ○小学校教員と保育所（園）職員及び幼稚園教員との懇談、小学校児童と保育所（園）幼児との交流行事を実施した。 ①幼児と児童の交流行事 ・学校への幼児の招待と交流（1年生による学校紹介や5年生との遊び交流、昔遊びの紹介、学習体験やビデオレターによる学校紹介等） ②教職員（全小学校） ・保幼小連絡会 担当者による参観と懇談 ・合同研修会（京都府乙訓教育局主催事業） ・幼稚園、保育所（園）での授業参観・体験（初任者研修、10年目研修対象）
担当課	学校教育課

施策の成果と課題
【成果】 ○小中学校道徳実践交流会では、小学校教員による特別の教科道徳の授業を各学校の教員が参観し、発達段階に応じた内容項目の在り方などの授業改善について協議を通して、授業改善の視点を明確にすることができた。 ○令和元年度以来、4年ぶりに中学校の職場体験活動が再開できた。中学2年生の生徒は、様々な職種から事業所を選び、3日間の職場体験活動を行った。体験活動前後の学習については、総合的な学習の時間等で計画的に進めるなど、生徒に望ましい職業観や勤労観を育成することができた。 ○「ひまわり広場」の指導員の確保に向けて臨床心理士を養成する大学と交渉を重ね、人材を確保することができた。また、複数の指導員を引き続き確保することで、通所する児童生徒に対して個に応じた丁寧な相談支援を実施することができた。 ○心の相談サポーター事業では、各サポーターが別室へ登校する児童生徒への個別の対応や、教室に入りにくい児童生徒の教室入室時における状況について教員と共有するなど、対象児童生徒の支援に貢献した。

○幼児児童生徒一人一人に応じた継続した教育的支援の充実を目指して、療育等の関係機関と協力して進めてきた「移行支援シート」の活用について、小学校での活用が定着するとともに、中学校での活用も進んできている。

【課題】

- 向日市いじめ防止対策推進委員会において、委員からは、令和6年度は令和5年度と比較したところ、未解消件数の増加が見られることから、学年や学校が変わっても当該児童生徒の経過を把握できるよう、教員間での連携を図ることが大切であるとの指摘があった。本市においては学年が上がるにつれ認知件数が減少する傾向も見られるところである。認知数の多さについては、学校が児童や生徒の思いを丁寧に把握し、普段からいじめを積極的に認知し、早期対応を図っている結果であるが、それだけ多くの児童生徒が嫌な思いをしている結果でもある。日常から教員が児童生徒の些細な変化を見落とすことなく、一層教員と児童生徒との信頼関係を構築し、いじめの初期段階で丁寧に寄り添うなどの対応が必要である。
- 各学校においては、不登校に係る児童生徒一人一人のアセスメントに基づいた支援を進めるため、専門家や関係機関との連携を図りながら組織的に対応していく必要がある。
- すべての児童生徒の教育機会を確保するため、登校という形にこだわらず、本市教育支援センター「ひまわり広場」の活用や民間フリースクール等との連携を図り、児童生徒の社会的自立に向けた支援を充実する必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 人権教育については、他の施策・事業（「PTAとの連携・支援」「多様性を認め合う社会の実現」）においても部落問題についての理解を深める取組が行われており評価できる。また、「道徳」「人権教育」は、教職員の指導力が必要な内容である。教職員の育成を図りながら取組を継続していただきたい。
- リアルな体験の場が少なくなっている中、職場体験活動は、生徒にとって貴重な経験の場である。受入企業の確保も大変な中で90社の協力を得て実施されていることを高く評価する。一方で、職場体験に挑む生徒の姿勢や態度が、今後も企業の協力を得られるかに影響する。その点の自覚も芽生える指導をお願いしたい。
- いじめ調査を実施し、それが早期解決につながっていることは評価できる。一方、解消に至らない場合、SNSの広がりによって、いじめの様態が、過去の事例とは異なってきている可能性がある。その視点を持って取り組んでいただきたい。
- 教育相談については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、臨床心理士、心の相談サポーターなど、人材確保が難しい中、多様な人材の配置に努めていることを評価する。このような体制で相談対応していることを周知し、保護者の安心につなげていただきたい。
- 校種間連携は、子ども達の直接交流や教職員間の交流が考えられ、どちらも非常に大切である。市内の小中学校では、積極的に実施されていることは評価できる。小学校から中学校へ校種が変わる時期は、発達段階の観点からも心の変化が大きいので、丁寧に取り組んでいただきたい。

施策番号	3
施策名	健やかな身体の育成

施策の基本方向 ○生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむ能力と体力の向上を図る。 ○知育・徳育・体育の基礎となる食育の推進とともに、現代的な健康課題への理解を深める等、健やかな身体の育成を図る。
--

事業名	体力テストの実施								
事業概要 実 績	○各学校において、新体力テストを実施した。								
	<結果> 令和6年度実施「新体力テスト」（平均値）								
	①小学5年（男子）：8種目中、6種目において全国平均を下回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (c m)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	14.61	18.68	32.51	39.53	43.69	9.28	147.41	20.82
	全 国	16.02	19.19	33.79	40.67	46.90	9.50	150.46	20.74
	京都府	15.84	19.89	32.20	40.82	51.66	9.25	154.47	22.44
	②小学5年（女子）：8種目中、6種目について全国平均を下回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (c m)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	14.52	17.61	38.57	38.65	36.54	9.55	140.86	12.38
	全 国	15.78	18.16	38.21	38.71	36.60	9.76	143.18	13.15
	京都府	15.22	18.70	35.98	38.65	40.74	9.57	146.07	14.27
	③中学2年（男子）：8種目中、7種目において全国平均を下回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (c m)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	27.54	25.58	42.26	51.34	76.37	8.02	198.45	19.02
	全 国	28.91	25.82	44.32	51.49	78.65	7.99	197.16	20.49
	京都府	29.53	26.15	43.43	53.27	84.32	7.79	202.63	20.40
	④中学2年（女子）：8種目中、6種目において全国平均を上回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (c m)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	21.91	21.63	44.78	46.73	52.78	8.55	170.31	12.63
全 国	23.14	21.47	46.44	45.67	50.48	8.96	166.22	12.32	
京都府	23.68	22.44	45.29	47.88	57.69	8.66	173.93	13.29	
担当課	学校教育課								

事業名	健康に関する授業
事業概要 実績	薬物乱用防止教室について、すべての小中学校で薬物乱用防止教室を実施した。 向陽小6年生（3月）、2向小6年生（12月）、3向小6年生（7月）、 4向小6年生（7月）、5向小6年生（7月）、6向小6年生（8月）、 勝山中2・3年生（6月）、西ノ岡中全学年（6月）、寺戸中3年生（7月）
担当課	学校教育課

事業名	食育・学校給食運営
事業概要 実績	○小学校では、食に関する体験活動（農作物栽培）や給食を通じて食育の推進を図った。 ・農作物例 1・2年生（さつまいも、枝豆、オクラ、ミニトマト、ピーマン） 3・4年生（大根、オクラ、キャベツ、なす、ゴーヤ） 5・6年生（かぼちゃ、きゅうり、じゃがいも、米等） 特別支援学級（大根、ねぎ、にんじん、じゃがいも、えんどう豆等） ・給食等の活用例（さつまいも、米、大根、玉ねぎ、ピーマン、ゴーヤ） ○小学校給食実施児童数 3,074 人（令和6年5月1日現在） ・米飯給食週4回実施。 ・食器消毒保管庫、牛乳保冷庫、ガス回転釜、給湯器等、給食備品の更新により、給食室衛生管理の徹底を図った。 ・給食室害虫駆除、栄養教諭等保菌検査、食材検査、専門家による研修等を実施し、衛生管理の徹底を図った。 ○中学校給食実施生徒数 1,384 人（令和6年5月1日現在） ・米飯給食週5回実施。 ○栄養士等給食関係者従事者の保菌検査、専門家による研修等を実施し、衛生管理の徹底を図った。 ○食物アレルギーを有する児童生徒へ医学的根拠に基づいた適切な対応ができた。 食物アレルギー ・小学校：278 人（有症率 9.0% 除去食対応 77 人） ・中学校：178 人（有症率 12.7% 除去食対応 35 人） ○中学校給食献立コンクール 献立コンクールを通じて、栄養のバランスや、地元野菜など給食への興味関心を持たせ、給食を通じて食育の推進を図った。 ・全中学校応募者合計数：340 人 - 入賞献立：教育長賞 1 人 優 秀 賞 4 人 (入賞献立は、2月3日～12日の間で実際に献立を実施)
担当課	学校教育課

施策の成果と課題

【成果】

- 小学校では、日々の給食指導や給食週間の取組、給食委員会の活動等を通して、食に対する正しい知識や食事のマナーの向上が図れた。
- すべての小中学校において、生活科や理科、委員会活動、生活単元活動を通して、農作物を栽培している。そのうち、小学校では収穫したものを給食等で活用し、栽培活動と食育と関連させた学習を進めることができた。

【課題】

- 体力テストの結果、多くの種目で全国平均を下回っていることを踏まえ、児童生徒の体力向上に向けて、体育や保健体育の授業中にサーキットトレーニングや筋力トレーニング等を行うだけでなく、休み時間の外遊び、部活動等を通じて様々な運動を経験させ、一層の体力の向上を図る必要がある。
- 中学校において、給食を活用した食育を通じて、望ましい生活習慣を身に付けるよう指導を行っていく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 体力テストは、健やかな身体の成長を図ることが最終的な目的である。府・全国との平均値比較だけに頼らず、データの散らばり具合（分散）を見ることも大切である。個々のデータ（個人）の様子に戻って分析することで、手立ての改善を図っていただきたい。
- 薬物乱用防止教室を全小中学校で実施されていることを評価する。継続して実施していただきたい。
- 食育では、小学校での「農作物栽培」を長年継続されている。食物が育つ過程を知るとともに、収穫したものを給食で食することは貴重な場であり評価できる。また、中学校の給食は、導入時から計画的に取り組まれ、スムーズに定着してきた。あわせて、中学校給食献立コンクールも継続され、給食と連動した「食育」が定着していることは評価できる。栄養教諭の積極的な活用を図り、今後も食育を推進していただきたい。

施策番号	4
施策名	学びを支える安心・安全な教育環境の充実

施策の基本方向 ○自然災害や事故などの多様な危機から子どもを守り、いかなる事態においても子どもたちの学びを止めない危機管理体制を整備する。 ○すべての子どもが将来に希望をもって成長していけるように、学びと生活の支援が充実した居場所としての学校づくりに取り組む。 ○強い使命感と高い専門性を持つ教員の育成を図り、児童生徒が明るくいきいきと学ぶ魅力ある学校づくりを目指す。 ○子どもの豊かな成長を支える教職員の資質能力の向上を図る。

事業名	子ども未来づくり支援事業（教職員研修）
事業概要 実績	○教育委員会主催教職員研修会を全教職員対象に年1回（学校の夏季休業中）開催 【内容】・人権教育（参加者数 79 人） 「このまちが好きだから ～被差別の歴史を持つ地域に生まれて～」 崇仁発信実行委員会 代表 藤尾 まさよ 氏 ・学力向上（参加者数 81 人） 「全ての子どもの学習権を保障する学びのあり方について ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて～」 京都教育大学総合教育臨床センター 講師 鈴木 英太 氏 ・生徒指導（参加者数 83 人） 「生徒指導提要（改訂版）が示す これからの生徒指導の方向性」 関西外国語大学 教授 新井 肇 氏 ○各学校の主な教職員研修 各校の教育課題に応じた研修講師を招き、研修会を実施 小学校 14 件、中学校 7 件（年間通じて複数回実施を含む延べ件数） 【内容】・学習指導（主体的・対話的で深い学び、算数科教育、社会科教育等） ・特別支援教育（児童の特性理解と具体的な指導・支援） ・人権問題（同和問題） ・その他（強みを生かした学級経営等） ○先進校視察研修 小学校 7 件、中学校 2 件 【視察先】 ・筑波大学附属小学校、大阪教育大学附属池田小学校、出雲市立大津小学校、蒲郡市立蒲郡東部小学校、横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 等
担当課	学校教育課

事業名	登下校時安全対策
事業概要 実績	○通学路安全推進会議の開催（２回） 向日市子どもの移動経路／通学路等の交通安全プログラムに基づき、通学の安全対策について協議を行った。 構成団体：京都府乙訓土木事務所・京都府向日町警察署・向日市（まちづくり推進課・学校教育課・道路整備課・子育て支援課） ○交通指導員の配置 小学校の通学路における交差点や踏切等、登校時 34 箇所、下校時 14 箇所の危険箇所に交通指導員を配置し、通学路の安全確保を図った。 また、老朽化した交通安全啓発用反射電柱幕の交換や新たな設置を行い、通学路の交通安全について啓発を行った。 ○防犯ブザーの配布 小中学校の新１年生全員に防犯ブザーを配布した。（小学生 563 個、中学生 452 個）
担当課	学校教育課

事業名	学校施設の整備
事業概要 実績	○小中学校体育館空調整備工事の実施 児童生徒の安心安全な教育環境の確保のほか、災害時には避難所としても使用する小中学校の全体育館に空調設備を整備した。 ・体育館空調設置箇所：小学校全 6 校、中学校全 3 校 ○バリアフリー改修工事の実施 誰もが支障なく学校生活が送れるようバリアフリー改修工事を実施した。 ・スロープ設置箇所：西ノ岡中学校体育館・玄関 ・バリアフリートイレ設置箇所：第 5 向陽小学校体育館、西ノ岡中学校体育館 ○トイレ改修工事の実施 子どもたちが、快適で衛生的な環境で学校生活が送れるよう、和式から洋式へトイレの改修を実施した。 ・トイレ改修内容：床面乾式化、洋式大便器、自動洗浄機能付小便器、自動水洗式手洗い器、人感センサー式 LED 照明機器 ・トイレ改修箇所：向陽小学校中校舎、第 3 向陽小学校北校舎・南校舎、第 5 向陽小学校北校舎 勝山中学校北校舎・南校舎・体育館 西ノ岡中学校南校舎、寺戸中学校体育館

	○LED改修工事の実施 学校環境の向上及び環境負荷の軽減、光熱費の節減を図るため、照明のLED改修工事を実施した。 ・LED改修箇所：第3向陽小学校、第5向陽小学校、勝山中学校、西ノ岡中学校
担当課	公共建物整備課

施策の成果と課題	
【成果（学校教育課）】 ○教育委員会主催教職員研修会を実施するに当たり、令和6年度も、教職員のキャリアに応じて3つの講座を開催した（3か年計画の2年目）。講座の参加対象を明確にすることにより、キャリアに応じた学びと実践に生かせる研修内容につながった。単年度のみの計画ではなく、複数年を見通し研修の在り方を模索し、実践することができた。 ○校内研修会を実施した学校では、それぞれの分野での専門家を研修講師に招き、学習指導や評価、特別支援教育等、学校の状況に応じて様々な研修テーマを設定し、思考力・表現力を育てる授業づくりの手法や評価の考え方、障がいのある児童生徒への対応等、教職員の資質・能力の向上を図ることができた。 ○学校の代表数人が、研究授業への参観や研究会に参加するのではなく、教職員全員で先進校視察に参加し、日常の取組から研究実践の成果を学ぶなど、先進校視察の方法を工夫して取り組んでいる学校があった。 ○通学路安全推進会議及び緊急合同点検において、学校から要望のあった通学路の危険箇所の情報を各関係機関と連携し、安全対策について点検、対策案を検討し、対策が必要な箇所について、各関係機関において、車止めの設置や電柱幕の設置など安全確保に向けた取組を進めた。通行に際し注意が必要な箇所に交通指導員を配置し、児童が安心して通学できるよう通学路の安全対策を図った。「学童多し注意」「危険 歩行者に注意」の電柱幕を設置することにより児童生徒だけでなく、通行する車両に対しても交通安全に対する啓発を行った。さらに、新1年生に防犯ブザーを配布し、不審者から身を守るための防犯・安全意識の啓発を行うとともに、いざという時に正しく使用できるよう指導を行った。また、学校だより等を通じ、防犯ブザーの定期的な電池交換と常時携行について周知した。 【成果（公共建物整備課）】 ○全小中学校の体育館に空調設備を整備することにより、熱中症を予防し、児童生徒の安心安全な教育環境の充実を図ったほか、災害時に避難所となる小中学校体育館の環境改善を行った。 ○障がいの有無に関わらず、誰もが支障なく学校生活を送ることができる環境を整備するため、バリアフリートイレを設置し、バリアフリー化を一層進めることができた。 ○校舎内等のトイレを洋式大便器や自動洗浄機能付小便器、乾式床等に改修することにより児童生徒が快適に学校生活を送れるよう、教育環境の改善を図った。 ○校舎内の照明をLEDに改修することにより、学校環境の向上や環境負荷の軽減に寄与することができた。	

【課題（学校教育課）】

○道路や周辺の状況変化等により通学路の危険箇所は常に変化するため、通学路安全推進会議の構成団体や学校・地域と連携して、定期的に要望や意見を取り入れつつ、交通指導員の配置時間や配置場所について、最適な見直しを行う必要がある。

【課題（公共建物整備課）】

○全小中学校体育館の空調機器については、令和6年度の夏休み期間を活用し設置したが、空調設備工事に伴い電気設備の改修が必要であったため、令和6年度からの使用に至らなかった。

○児童生徒の安全確保及び学校施設の維持管理のために、老朽化が進行している校舎について、計画的に老朽化対策改修工事を実施しているものの、今後も進行する老朽化について計画的に維持管理を進める必要がある。

○令和2年5月策定の「向日市小中学校個別計画」に基づき、令和6年度から着手している第2向陽小学校の改築に取り組む必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○教職員のキャリアに応じて、3か年の複数年にわたる教育委員会主催の研修を、計画的に実施されていることを高く評価する。このような複数年かけて行う研修は、内容を系統立てて行えるため非常に有効なものとなる。今後も継続的に開催していただきたい。また、教職員が毎年度、様々な研修を受講し、資質の向上を図っていることを保護者に伝えることで、保護者の安心にもつながるので行っていただきたい。

○交通指導員をシルバー人材センターに委託して配置していることは、地域の見守り的な役割にもなっており評価できる。一方、交通状況は、市内の開発や道路整備に応じて変化することから、柔軟に交通指導員を配置し、児童生徒の安全の確保を図っていただきたい。

○限られた予算の中でバリアフリーやトイレ改修など効果の高い環境整備をされていることを評価する。特に、体育館の空調整備は、熱中症予防にもつながり、高く評価する。今後も学校の意見を聞きながら学校施設の整備を進めていただきたい。

施策番号	5
施策名	学校・家庭・地域の連携・協働による学校の教育力の向上

施策の基本方向 ○保護者や地域社会と連携・協働しながら、未来の創り手となる子どもの資質能力をはぐくむ「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。 ○次代の社会の担い手としての責任を自覚し、現代社会が抱える課題に関心をもって、主体的に社会参画できる資質と能力をはぐくむ。
--

事業名	学校評価
事業概要 実績	○自己評価 各学校は、評価計画に基づき教育活動に係る評価を実施することにより、各取組を改善した。 ・学校、学年、学級、校内分掌担当での評価を実施（年2～3回） ・児童生徒、保護者、学校運営協議会委員にアンケート調査を実施（年3～4回） ・評価と調査を基に教育活動を捉え直し、改善策を明確化 ・業務改善の視点を取り入れ実施（全小中学校） ○自己評価の公表 各学校は、各研究内容や授業改善の視点、家庭学習等、自己評価の結果を受けた教育活動の改善の方向性について学校だより等で周知した。
担当課	学校教育課

事業名	コミュニティ・スクールの展開
事業概要 実績	○小中学校における学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の進行管理と取組の充実を支援した。 ①各小中学校における学校運営協議会の状況把握とその運営を支援 ・各学校の運営協議会にオブザーバー参加し、状況を把握 ・他校での取組や「熟議」の状況を把握し、それぞれの学校の取組について助言 ②学校運営協議会（年3回程度）だけでなく、協議会委員が学校の状況を把握する機会の拡充（授業や学校行事の参観、公開授業の案内等）
担当課	学校教育課

事業名	情報モラル教育
事業概要 実績	○情報モラル教育の充実 各学校では「特別の教科 道徳」や学級活動等において、インターネット上の誹謗中傷やいじめ、個人情報の流出やプライバシーの侵害、有害情報やウイルス被害に巻き込まれるなどの問題の未然防止として、具体の被害を例示しながら対策や対応等について知識を習得させるなど、情報モラル教育を充実させた。 <企業等との連携>

	・勝山中 1・2年 7月（京都府警サイバー対策本部） ・西ノ岡中 全学年 6月（KDDIから資料提供） ・寺戸中 全年生 5月（KDDI）
担当課	学校教育課

施策の成果と課題
【成果】 ○年間を通して計画的な学校運営協議会の運営となった。運営協議会委員の方々に様々な機会を案内したことで、学校、特に児童生徒の状況の理解が進んだ。 ○これまでは地域学校協働活動やPTA活動、様々な学校ボランティアなどがそれぞれに取り組んできたが、担当者が一堂に会することで、横のつながりをつくることができた。 ○全児童生徒の発達段階に応じ、授業での指導はもとより教育活動全体を通じて、学習指導要領で学習の基盤となる資質・能力の一つとして位置付けられた、情報活用能力（情報モラルを含む）の育成を図ることができた。 【課題】 ○「向日市立の小学校及び中学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則」に基づき、各学校の状況に応じた業務改善を一層推進させるとともに、京都府教育委員会「教職員の働き方改革実行計画」の評価指標を学校評価と連動させ、業務改善の点検・評価を実施する必要がある。 ○スマートフォンやSNSの利用が低年齢化する中、これらの利用を巡るトラブルが見られたため、発達段階や実態に応じて、利用の仕方について家庭と一層連携を図るとともに、安心・安全な利用について企業等と連携した指導を継続させる必要がある。

外部評価委員評価及び意見等
○学校評価は、PDCAサイクルの定着に重要な役割を果たすものである。毎年、児童生徒や保護者のみならず、学校運営協議会委員などの外部の視点も取り入れながら着実に実施されていることを評価する。一方、前年踏襲によって形骸化することがないように取り組んでいただきたい。 ○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）は、導入から2年が経過し、年間計画や協議内容等の定着が進んできた段階である。一方、向日市は学校によって地域学校協働活動の展開状況に違いがある。このため、教育委員会も支援しながら「熟議」を進め、各学校の特色に応じたコミュニティ・スクール（学校運営協議会）が推進されることを期待する。 ○情報モラル教育は、企業等から外部講師を招くと効果があり、評価できる。ただ、教師の視点が入りにくいことがある。専門知識を持つ教員（例えば、府立高校の情報教育担当教員）から助言をもらい、それをもとに、講師と内容を相談するなどの工夫をすることで、より子ども達の実態に合った内容になるのではないか。

施策番号	6
施策名	生涯学習環境の充実

施策の基本方向 ○市民が生涯にわたり、多様な学習活動を行うことができるよう、自主的、自発的な学習活動を支援するとともに、学習機会の提供、学習の成果を活かす場や機会の充実に努める。

事業名	生涯学習情報紙の発行
事業概要 実績	○市などが開催する生涯学習関連事業の情報を市民に提供するため、生涯学習情報紙を発行した。 ・生涯学習情報紙：年4回(春・夏・秋・冬) 各回 500 部紙印刷(市内公共施設等に配布) 市HPにPDFデータ掲載 ・子ども向け夏休み情報紙：年1回(夏休み前)、各小中学校に配布
担当課	生涯学習課

事業名	生涯学習推進ボランティアサークル「まなぼうや」への支援
事業概要 実績	○生涯学習の推進に取り組むボランティアサークル「まなぼうや」の活動に対して、講座の受付や広報等の支援を行った。 ・開催講座数：2 講座（参加者数 25 人） ・定例会：9 回
担当課	生涯学習課

事業名	中央公民館生涯学習講座
事業概要 実績	○子どもふれあい講座の開催 ①ふしぎ発見！理科教室 理科好きの子どもを育成するため、国家資格を有する科学の専門家（京都技術士会の会員）から理科の不思議について学ぶ「ふしぎ発見！理科教室」を5回開催した。 ・「色と光の不思議な関係」 光の3原色である赤・青・緑の光の重ね合わせによる色の変化について、実際にLEDを使用して体験した。 開催日：令和6年6月22日（土）（参加者数28人） ・「天気が分かる？不思議な結晶」 薬品を混ぜ合わせて天気予測の道具「ストームグラス」を作った。結晶を観察して、ものの溶け方について学んだ。 開催日：令和6年7月27日（土）（参加者数30人） ・「さいせい可能エネルギーで電気をつくろう！」 太陽の光を電気に換える仕組みと電気を貯める仕組みを学び、未来の家について学んだ。 開催日：令和6年8月3日（土）（参加者数31人）

- ・「ものの周りの流れの力」

水や空気が流れた時のものの動き（働く力）を観察し、ボールが曲がる、飛行機が飛ぶなどの理由を考えた。

開催日：令和6年8月24日（土）（参加者数16人）

- ・「び生物ではっこうさせよう」

酵母が「砂糖」と「塩」のどちらで膨らむか、容器の中で発酵すると泡が出るのを観察した。

開催日：令和6年9月28日（土）（参加者数28人）

②「将棋が強くなる！」教室

棒銀戦法の解説を受け、詰将棋に挑戦し、練習対局を行った。

開催日：令和7年2月11日（火祝）（参加者数20人）

○教養講座・健康講座の開催

①市民教養講座

- ・「シニアのためのスマートフォン講座」

スマホデビューからもう一歩！と題して、中高年を対象にスマートフォンの機能を学び、実際に使い生活に役立つことを知り、その便利さを体験した。

開催日：令和6年5月31日（金）（午前・午後2回開催）（参加者数32人）

講師：ソフトバンク スマホアドバイザー

開催日：令和6年12月18日（水）（午前・午後2回開催）（参加者数33人）

講師：ソフトバンク スマホアドバイザー

- ・「老後の生活を守るために」

老後を安心して楽しく暮らすために、生活設計に必要なお金と知識、消費者トラブルの注意点を学んだ。

開催日：令和6年9月20日（金）（参加者数21人）

講師：京都府金融広報委員会 岡田教子 ファイナンシャルプランナー

- ・「物語文学—源氏物語を中心として」

源氏物語を中心に、日本の古典文学について楽しく解説していただいた。

開催日：令和6年10月25日（金）（参加者数34人）

講師：京都府立大学 安達敬子 名誉教授

- ・「源氏物語、『姫君』にたとえられた植物のうんちく」

源氏物語の作者・紫式部の感性の鋭さを、源氏物語に登場する植物から読み解いていただいた。

開催日：令和6年12月14日（土）（参加者数22人）

講師：京都府立大学 松谷 茂 客員教授

	②市民健康講座 ・「高血圧と上手につきあう」 高血圧と診断されたら過度に恐れず、また、楽観視しない正しい知識を学んだ。 開催日：令和6年11月13日（水）（参加者数42人） 講 師：京都府立医科大学 的場聖明 教授 ・「老化と脳」 老化に伴った脳の病気と健康の維持についてお話いただいた。 開催日：令和7年3月15日（土）（参加者数63人） 講 師：京都府立医科大学 渡邊義久 講師 ③市民文化講座 「童謡・唱歌の世界」 童謡・唱歌の歴史や違いを解説していただき、それぞれの歌の由来を紐解き全員で歌った。 開催日：令和6年10月4日（金）（参加者数37人） 講 師：京都西山短期大学 島袋 章 客員教授 ○市民文化展 市民の創作による作品（絵画、写真、書、工芸等）を展示・発表する場を提供するとともに、市民の文化活動の活性化を図った。 開催日：令和6年11月22日（金）～24日（日）の3日間 出展者数：85人 出展数：95点 来場者数：332人 開催場所：永守重信市民会館ホール ○学習発表会「舞台の部」 公民館で活動しているクラブ・サークルが学習の成果（合唱、合奏、演舞）を発表した。 開催日：令和7年3月9日（日） 参加クラブ：登録7クラブ96人 観覧者数：352人 開催場所：永守重信市民会館ホール
担当課	中央公民館

事業名	地区公民館生涯学習講座
事業概要 実績	身近な公民館で、一般教養、趣味などの講座に参加することにより教養を高め、また、地域の活性化が図れるように努めた。 ○寺戸公民館 ・趣味・教養講座「ハワイアンリボンクラフト教室」 ハワイの魅力たっぷりのチャームづくりを行った。 開催日：令和6年8月9日（金）（参加者数29人）

・健康講座「太極拳体験教室」

初心者も無理なく身体を動かして、健康な身体づくりのきっかけとした。

開催日：令和6年10月16日（水）（参加者数15人）

・趣味・教養講座「楽しく学ぶ干支剪画教室」

剪画の技法を学び、令和7年の干支である「巳」の色紙を作成した。

開催日：令和6年11月22日（金）（参加者数15人）

・趣味・教養講座「寄せ植えを楽しもう」

季節の花木を用いてクリスマスから新春を飾る寄せ植えを学んだ。

開催日：令和6年12月19日（木）（参加者数31人）

○物集女公民館

・健康講座「体内時計と健康」

睡眠の必要性と役割、体内時計の働きと重要性、その整え方を学んだ。

開催日：令和6年12月10日（火）（参加者数32人）

○森本公民館

・教養講座「特殊詐欺にどう対処するか」

詐欺被害に遭わないために電話や訪問者に対する対処の仕方などを教えていただいた。

開催日：令和7年3月19日（水）（参加者数31人）

○鶏冠井公民館

・趣味・教養講座「春の寄せ植え」

季節の8種類のお花で自宅を彩る寄せ植えを作った。

開催日：令和7年3月5日（水）（参加者数18人）

○上植野公民館

・健康講座「元気アップ体操」

体を動かすきっかけに、みんなで体操をした。

開催日：令和6年10月17日（木）（参加者数31人）

・趣味・教養講座「金箔手工芸」

令和7年の干支（巳）の下絵が描いてある色紙に金と銀、色とりどりの箔で華やかにアレンジした。

開催日：令和6年12月17日（火）（参加者数10人）

○学習発表会「展示の部」

公民館で活動しているクラブ・サークルが学習の成果（絵手紙、生花、絵画、俳句、編み物、手芸等）を展示し発表した。

	開催日：令和7年2月～3月の毎週土日（各地区公民館が順次開催） 参加クラブ：登録29クラブ 292人 全出展数773点、来場者総数553人
担当課	中央公民館

事業名	図書館運営事業
事業概要 実績	○資料の収集と貸出 - 蔵書数：200,264点 - 貸出資料数：274,128点 貸出者数：84,103人 ○レファレンス・サービス - 受付件数：68件 ○予約サービスによる資料提供、他館との相互貸借、障がい者サービス - 予約処理件数：29,823件 - インターネット予約受付件数：24,332件 - 相互協力：貸出1,109件、借用1,615件 - 障がい者サービス：自宅配本26回（174点） ○施設利用の促進 - 自習室の開設（8月） 利用者141人 - 自習スペースの設置（通年） 利用者2,468人 ○電子書籍サービス「どこでも図書館」事業（令和6年11月1日開始） - コンテンツ数（年度末現在） 1,012点 - 年間ログイン人数 629人 - 年間貸出回数 813回 ○館外返却ポストの設置（令和7年3月4日設置） - イオンモール京都桂川 返却数679冊 ○読書の普及推進と読書環境の向上を図るための各種読書推進活動 - おはなし会（7月、12月、3月） 参加者99人 - おはなしひろば（7月、8月、12月、3月を除く毎月） 参加者250人 - 大人の朗読会（6月、9月、12月、3月） 参加者69人 - むこうビブリオバトル（7月、11月、3月） 参加者33人 - 虹いろおはなし会（5月、8月、11月、2月） 参加者33人 - ミニミニリサイクルコーナー（通年） 譲渡数4,184冊 - 小中学生読書感想文コンクール（9月募集、12月表彰式） 応募者155人

	○展示 ・「どきどきわくわくみつけた！」（４月～５月） むかしばなし探偵 など ・テーマ架（通年）館内約 10 か所で季節、催事にあわせて図書を展示 ・おおきくなあれ「本の木」（通年）応募数 150 点 ○図書館ボランティアの育成及び支援 ・ステップアップ講座（９月）参加者 14 人 ・ボランティア養成講座（９月）参加者 13 人 ○他機関との協力 ・認知症図書の展示（向日市社会福祉協議会）
担当課	図書館

事業名	文化資料館運営事業
事業概要 実績	○古代の都“長岡京”をテーマとした常設展示の運営、企画展・テーマ展等の展示、日曜談話会・シンポジウムの開催、市民ボランティア活動の支援等を通して、向日市の各時代の歴史及び文化について広く発信した。 ・開館日数：294 日 入館者数：13,455 人 ○企画展 ・「扁額・古文書・檀林関係資料」 開催日：令和 6 年 3 月 9 日（土）～5 月 6 日（月・振休） 期間中入館者数：2,094 人 ・「中世の乙訓・西岡と物集女氏・物集女城」 開催日：令和 6 年 11 月 2 日（土）～令和 7 年 1 月 13 日（月・祝） 期間中入館者数：3,083 人 ○図書館・文化資料館特別展「渡邊武と文人たち」 会 場：図書館 2 階 研修室 開催日：令和 6 年 11 月 2 日（土）～11 月 17 日（日） 期間中来場者数：357 人 ○テーマ展 ・「向日市・乙訓の石碑」 開催日：令和 6 年 3 月 9 日（土）～5 月 6 日（月・振休） 期間中入館者数：2,094 人 ・「郷土玩具展」 開催日：令和 6 年 5 月 18 日（土）～7 月 7 日（日） 期間中入館者数：1,379 人

- ・「くらしのなかの戦争展 高山彦九郎像と昭和の戦争―鶏冠井石塔寺住職・明渡日正の活動を通して―」
開催日：令和6年7月13日（土）～8月25日（日）
期間中入館者数：2,098人
- ・「ふるさと歴史紙芝居原画展」
開催日：令和6年7月13日（土）～8月25日（日）
期間中入館者数：2,098人
- ・「くらしの道具展」
開催日：令和7年1月18日（土）～3月30日（日）
期間中入館者数：2,859人
- ・「ひな人形展」
開催日：令和7年2月22日（土）～3月30日（日）
期間中入館者数：1,244人

○文化活動事業

①「戦国時代へタイムスリップ！～西岡衆をさぐる～」活動報告会

開催日：令和6年5月3日（金・祝）（参加者数50人）

②日曜談話会

- ・「扁額と古文書―京都府暫定登録文化財の古文書を読んで社額の由緒や江戸時代の村を調べよう―」

開催日：令和6年5月5日（日・祝）（参加者数28人）

- ・「報告『その後の物集女氏』」

開催日：令和6年9月15日（日）（参加者数96人）

- ・「陶芸家・河合卯之助の横顔」

開催日：令和6年11月17日（日）（参加者数20人）

③古代衣裳関連事業「作って学ぼう 古代のみやこ・長岡京」

開催日：令和6年7月21日（日）（参加者数20人）

④夏休み親子歴史教室「伝統文化を学ぼう―紙漉きと書道―」

開催日：令和6年7月24日（水）～26日（金）（参加者数14人（延べ42人））

⑤2024 戦国時代へタイムスリップ！―西岡衆を深める 文書と寄合―

開催日：令和6年7月27日（土）（参加者数6人）

⑥小さいピアノ♪コンサート

開催日：令和6年11月9日（土）（参加者数55人（うち、演奏者12人））

⑦物集女城跡国史跡記念シンポジウム関連事業

「学んで伝える戦国時代の西岡衆」

開催日：令和6年11月24日（日）・12月1日（日）・令和7年1月11日（土）
（参加者数6人（延べ14人））

⑧物集女城跡国史跡記念シンポジウム関連事業

「乙訓戦国ミュージアムウォーク 向日コース」

開催日：令和6年12月8日（日）（参加者数48人）

	⑨物集女城跡国史跡記念シンポジウム 開催日：令和7年1月11日（土）（参加者数334人） ⑩物集女城跡国史跡記念シンポジウム録画映像上映会 開催日：令和7年3月21日（金）～23日（日）（参加者数延べ75人）
担当課	文化資料館

事業名	天文館運営事業
事業概要 実績	○プラネタリウム新番組の導入、講演会や講座の開催など、天文への興味・関心を高める事業を実施した。 ・開館日数：242日 ・投影日数：168日 投影回数：480回（10番組） ・プラネタリウム一般投影観覧者数：3,204人（特別投影を含む） ・プラネタリウム団体投影観覧者数：1,738人（46団体） ・観覧者：4,942人（大人2,238人、小中学生1,064人、幼児1,640人） ・団体の内訳 - 市 内：13団体 422人 - 市 外：35団体 1,316人 - 幼稚園：9団体 408人 - 保育所：13団体 514人 - こども園等：11団体 388人 - 小学校：3団体 163人 - そ の 他：10団体 265人 ○定例天体観望会参加者数：290人（11回開催、うち望遠鏡・双眼鏡観望のみ8回、解説のみ3回） ○特別天体観望会参加者数：68人 ・昼の金星観望会：38人（1月 3回） ・夏の親子天体観望会：30人（8月 1回） ・朝堂院公園観望会：（4月 1回）曇天のため開催中止 ○天文教室・講座参加者数：865人（34回開催） ・夏の天文教室：50人（7月、8月 計6回） ・秋の天文教室：10人（9月 1回） ・冬の天文教室：10人（1月、2月 計2回） ・天文実験講座：11人（7月 1回） ・天文学講座：73人（10月、12月 計2回） ・JAXA特別講演会：55人（1月 1回） ・出前講座：656人（9月～11月 向日市内公立小学校全校4・6年生 計21回） ○特別企画事業参加者数：229人（6回開催） ・七夕ファミリーコンサート：55人（8月 2回） ・熟睡プラ寝たリウム：46人（11月 1回） ・クリスマスコンサート：63人（12月 1回）

	・キッズプラネタリウム：65 人（3月 2回） ○来館者総数：7,906 人（内ロビーのみ入館者 2,243 人）
担当課	天文館

施策の成果と課題	
【成果（生涯学習課）】 ○生涯学習情報誌を発行することにより、市などが開催する生涯学習関連事業の情報を、多くの市民に提供することができた。また、記載方法などを毎回見直し、より見やすい紙面になるよう努めた。 ○生涯学習推進ボランティアサークル「まなぼうや」の活動支援等、市民の学習活動を支援するためのきっかけづくりや、学習機会の提供に取り組めるよう助言等することができた。 【成果（中央公民館）】 ○中央公民館、地区公民館の生涯学習講座は、お馴染みの講座に加えて新しい講座を開催し、前年度に比べて参加者数が約 44%増加し、気軽に参加できる学習の場を多くの方に提供できた。 ○学習発表会の舞台の部について、参加クラブが増え、多くのクラブ員の参加で活気のある発表会となり、それぞれのクラブ・サークルの学習の成果を広く発表できた。 【成果（図書館）】 ○向日市どこでも図書館事業やイオンモール京都桂川への返却ポスト設置等により、図書館への来館が困難な方をはじめ、しばらく図書館を利用していなかった方や、これまで図書館に来たことがない方に対しても、読書を通じた生涯学習に図書館を役立ててもらうことができた。 【成果（文化資料館）】 ○企画展「中世の乙訓・西岡と物集女氏・物集女城」では、平安時代末から戦国時代にかけて寺社や公家・武家のもとで作成された古文書のパネル展示を中心に、物集女城跡の背景にある歴史を様々な角度から紹介することができた。 ○「くらしのなかの戦争展 高山彦九郎像と昭和の戦争―鶏冠井石塔寺住職・明渡日正の活動を通して―」では、昭和戦前～戦中期に三条大橋畔の高山彦九郎像建立など様々な活動を主導した明渡日正に焦点を当て、これまでの「くらしのなかの戦争展」とは趣が異なる新しい切り口で昭和の戦争について紹介することができた。 ○物集女城跡国史跡記念シンポジウムは、物集女城跡が令和 6 年 10 月に京都府内の中世城館跡として初めて国史跡となったことを記念して開催したもので、物集女城跡の調査・研究に携わる専門家が一堂に集まり、画期的な催しとなった。関東や九州などの遠方も含め多くの方が来場され、物集女城跡の歴史的・文化的価値とその魅力を広く発信することができた。 【成果（天文館）】 ○プラネタリウム室を利用した星空と生演奏がコラボする内容の七夕ファミリーコンサートやクリスマスコンサート、また、毎年、市民の人気の高い、JAXA特別講演会などは、特に大勢の方に参加してもらえた。	

- 各教室や講座などの定員数を増やしたこと、また、幅広い内容が市民の興味・関心と合ったと思われ、参加者が増える傾向にあった。リピートの方も多いが、様々な年齢層の方が天文に関心を持っていたことができた。
- プラネタリウム室を利用した小学校対象の星空を学ぶ機会や学校に出向き行う出前講座などを向日市内公立小学校全校に利用・活用していただき、天文への興味が広がった。
- 天文学を深め、身近に感じてもらえる機会が多くもてた。
- 定例観望会開催申し込み方法をこれまで行っていたハガキ利用のみから令和6年12月よりWEB化を実施し、より便利な方法で幅広く利用できるようになった。

【課題（生涯学習課）】

- 生涯学習について、引き続き市民が自主的・自発的に学習活動に取り組めるよう、各課・関係機関が実施している講座の情報について、情報誌の紙面と提供の方法に工夫が必要である。

【課題（中央公民館）】

- 市民講座の参加者について、健康講座は多いが、教養講座は開催時期によっては参加者が少ないケースも見受けられ、今後、広報のあり方を含め周知方法について検討する必要がある。
- 地区公民館の講座について、開催回数は増えたが、お馴染みの講座については参加者が固定化しており、今後は機会を捉えて広く参加について呼びかける必要がある。

【課題（図書館）】

- 高齢化社会・人口減少社会の進展が図書館の利用実績にも影響していると考えられる一方、デジタル技術の普及等による市民の読書離れ・活字離れを心配する声も日増しに高まっていることから、図書館が市民の読書を支援するという側面だけではなく、市民の「知りたい・学びたい」欲求に応えられる施設として幅広く認められるよう、施策を講じなければならない。

【課題（文化資料館）】

- 年間入館者数は、令和3年度以降は毎年右肩上がりに増加しているが、なおコロナ禍以前の水準までは戻っていない。幅広い層の多様な関心を考慮しながら事業内容や周知方法の工夫に努め、入館者数の一層の増加につなげる必要がある。
- 若い世代の地域の歴史に対する理解と愛着を深めるため、出前授業形式や来館形式のモデル学習プランの提案、提供可能な資料の紹介などを通じて、小中学校との連携・交流を深め、文化資料館の学校教育への活用を促進していく必要がある。

【課題（天文館）】

- 一般投影の観覧者数については、コロナ禍以降、増加傾向にあったが、空調機器故障による休止期間を挟んだため、減少となったことから増加を図っていきたい。
- 天文館の存在を市内、市外問わず広く知ってもらえるよう今後も宣伝活動に努め、利用促進を進めていく必要がある。
- 向日市内の子どもたちに今まで以上に活用できるよう、事業内容を充実させる必要がある。

- 定例天体観望会については、双眼鏡・望遠鏡などで惑星・星座・星団・月などを肉眼で観望する他、スマート望遠鏡を導入した電子観望を行うなど、天文を身近に感じてもらえるよう充実を図る。
- 天文館がより魅力のある場所として利用してもらえるよう、事業内容の充実や環境整備を進める必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 生涯学習情報紙については、趣味・教養やこども、暮らしなどの内容ごとに掲載されているとともに、写真やイラストなどを入れて見やすく編集されており、定期的に継続して発行されていることは評価できる。しかし、年齢層によって見やすさ、わかりやすさが異なることもあるので、幅広い年齢層の意見も聞きながら工夫・改善を図っていただきたい。
- 中央公民館生涯学習講座については、子どもや高齢者といった年齢層を絞った講座や幅広い年齢層を対象とした講座など多岐にわたっており、市民ニーズにあった工夫をされていることを評価する。また、地区公民館生涯学習講座については、定番になっているものから新しいものまで、各公民館が特徴を出して継続されていることを評価する。講座内容のレベルが高いことから講師の確保に努めていただきたい。
- 図書館については、自習室や自習スペースの開設は評価できる。自習室・自習スペースの利用が多いことから、図書館利用につなげられるよう工夫していただきたい。加えて、返却ポストをイオンモール京都桂川に設置したことは、多くの人の目に触れることから、周知効果も含め非常に効果が高い。
- 文化資料館については、「テーマ展」がよく考えられており、来館者数につながるのも納得できる。また、「企画展」は質が高い。文化庁の補助金を得ていることがその証明である。いずれの展示内容も質が高く、優れている。
- 天文館については、市内公立小学校全校へ出前講座を実施されていることを評価する。具体物を提示できないため、学校の先生にとっては、天文分野を教えるのは難しい。出前講座の実施が、教員研修の機会と捉えることもできる。ぜひ、継続していただきたい。

施策番号	7
施策名	家庭・地域社会の教育力の向上

施策の基本方向 ○家庭教育はすべての教育の出発点であり、その担い手である保護者自身が学ぶための学習機会の充実に努める。 ○学校・家庭・地域社会が連携して、様々な活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進する。

事業名	家庭教育講座
事業概要 実績	○講演会 家庭でできる「性」のお話～いつから？どんなふうに？～ 開催日：令和6年11月16日（土）（参加者数26人） 講師：えみ助産院院長 谷口 貴子さん 場所：永守重信市民会館第1会議室
担当課	生涯学習課

事業名	P T Aとの連携・支援
事業概要 実績	○向日市P T A連絡協議会の支援・助言 理事会年11回、軽スポーツ大会等の活動支援 ○社会教育関係団体への補助金交付 交付団体：市立小中学校P T A ○向日市P T A連絡協議会との共催による人権研修の実施 ・第1回「部落問題と向き合う若者たち」 開催日：令和6年7月26日（金）（参加者数28人） 場所：永守重信市民会館第1会議室 ・第2回「誰も取り残されない社会のために～障がいのある人と人権～」 開催日：令和6年12月21日（土）（参加者数22人） 場所：永守重信市民会館第1会議室
担当課	生涯学習課

事業名	地域学校協働活動推進事業
事業概要 実績	○保護者をはじめ自治会や農家組合の方など幅広い地域住民の参画を得て、学校に対する多様な協力活動を実施し、地域全体で児童生徒の学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域の方々が双方向で連携・協働し、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを推進した。 ・実施校：向陽小（H26～）、2向小（H24～）、3向小（H21～） 4向小（H29～）、5向小（H27～）、6向小（H28～） - 勝山中（H27～）、西ノ岡中（H25～）、寺戸中（R元～）

	・本部委員：61 人 ・内 容：学習支援（向陽小、2 向小、3 向小、4 向小、6 向小、勝山中、西ノ岡中） 環境整備（向陽小、4 向小、5 向小、6 向小）
担当課	生涯学習課

事業名	放課後児童サポート事業
事業概要 実 績	○子どもの安心・安全な居場所づくりを目的に、5 時間目終了後から高学年の授業終了までの間、低学年を対象に自由遊び等を行った。 ・実施場所：向陽小、2 向小、3 向小、5 向小、6 向小 ・実施回数：64 回 ・内 容：グラウンド・体育館での自由遊び、教室での学習支援など
担当課	生涯学習課

事業名	青少年健全育成団体との連携・支援
事業概要 実 績	○青少年健全育成団体との連携 ・安全見守りパトロール実施 ・あいさつ運動を小中学校登校時に実施（2 団体） ・市民ふれあいコンサートを出演者など関係者のみで開催 参加校・参加団体：市内 3 中学校及び京都西山高等学校の吹奏楽部、 京都管楽合奏団 ARTY BEARS ○青少年健全育成団体への補助金交付 交付団体数：3 団体
担当課	生涯学習課

施策の成果と課題	
【成果】 ○家庭教育講座では、絵本や模型を使った講話とグループワークを交えての講師と参加者が一体となった講座となり、保護者の関心の高いテーマについて、理解度を高めることができた。 ○地域学校協働活動推進事業については、本部委員の数、活動内容も増加し、地域と学校との連携、協働を図ることができた。 ○PTA・青少年健全育成関係団体の活動の運営及び事業に要する経費の一部を補助することで、社会教育の振興・発展を図るための活動に対する支援を行うことができた。 ○「市民ふれあいコンサート」は、昨年と比べ、開催時間を延長し、日頃の練習の成果を発表しあうことで、保護者や他の団体とのふれあいの場となった。 【課題】 ○家庭教育力の向上を図るため、保護者の関心のあるテーマや、現代的課題の解決の一助となる学習機会の提供を図ることが大切である。今後は、他課との連携も視野に入れて効果的な事業を検討する必要がある。	

○地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを継続して実施していけるよう、地域学校協働活動推進事業における人材確保に努めるとともに、PTAや青少年健全育成関係団体の活動を支援することが必要である。また、学校運営協議会において熟議された学校のニーズを踏まえ、地域学校協働活動を実施するなど、地域学校協働活動とコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）の一体的推進を図る必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○家庭教育講座について、今回、非常に重要なテーマを実施されたことを評価する。家庭においても教えることが難しいテーマであり、座学だけでなくグループワークも取り入れられた効果の高い内容となっている。今後もこのような内容の講座が実施されることを期待する。

○向日市PTA連絡協議会との共催で実施された人権研修については、子育て世代へ人権について正しい理解を深めてもらうための機会となっていることを評価する。

○地域学校協働推進事業については、幅広い地域住民と学校が連携して、学習支援や環境整備を全小中学校で実施していることを評価する。今後、学校運営協議会との連携を深めながら活動の推進を図っていただきたい。

施策番号	8
施策名	安心して産み育てる体制づくり

施策の基本方向 ○安心して子どもを産み、健やかに育てることができる環境づくりを推進する。
--

事業名	放課後児童健全育成事業（留守家庭児童会運営事業）
事業概要 実績	○放課後などに保護者等が仕事などで不在の小学生に、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図った。 ①各留守家庭児童会入会児童数：895 人（令和 6 年 5 月 1 日現在） ・第 1 留守家庭児童会：175 人（3 クラブ） ・第 2 留守家庭児童会：145 人（3 クラブ） ・第 3 留守家庭児童会：90 人（2 クラブ） ・第 4 留守家庭児童会：249 人（4 クラブ） ・第 5 留守家庭児童会：159 人（3 クラブ） ・第 6 留守家庭児童会：77 人（2 クラブ） ②各留守家庭児童会夏季入会児童数：79 人（令和 6 年 7 月 22 日～8 月 23 日） ・第 1 留守家庭児童会：11 人 ・第 2 留守家庭児童会：20 人 ・第 3 留守家庭児童会：11 人 ・第 4 留守家庭児童会：12 人 ・第 5 留守家庭児童会：18 人 ・第 6 留守家庭児童会：7 人 ③指導員研修会の実施（計 6 回） ・「救命救急講習」（5 月） ・「情報セキュリティ研修」（6 月） ・「子どもの育ちを守る 留守家庭児童会の役割」（9 月） ・「児童生徒の指導に係る研修」（10 月） ・「保護者との連携・協力と相談支援」（1 月） ・「不審者対応」（2 月） ④留守家庭児童会巡回支援相談事業の実施 放課後児童健全育成事業における育成支援の内容と質の向上（指導員のレベルアップ）を図るため、留守家庭児童会の巡回相談を実施した。 <令和 6 年度実施回数> 計 4 回 ⑤施設環境整備 建具、網戸、トイレなどの施設修繕
担当課	生涯学習課

事業名	幼児教育の振興
事業概要 実績	○向日市私立幼稚園設備費補助金 園児に安全で快適な教育環境を提供し、幼稚園教育の振興を図るため、市内私立幼稚園の設置者に対し、私立幼稚園の設備等の充実に係る経費を補助した。 交付：市内 3 園 630,000 円（1 園当たり 210,000 円） ○向日市私立幼稚園教材教具購入補助金 在籍する園児の保護者負担の軽減を促進するとともに、幼稚園教育の振興を図るため、市内私立幼稚園の設置者に対し、私立幼稚園の教材教具の購入に係る経費を補助した。 交付：①備品の購入に要する費用 市内 3 園 270,000 円（1 園当たり 90,000 円） ②消耗品及び図書の購入費用 市内 3 園 383,400 円（426 人：市内在住の園児一人当たり 900 円） ○乙訓私立幼稚園協会教育研究補助金 乙訓私立幼稚園協会が実施した教育研究事業に係る経費を補助することにより、市内に設置された私立幼稚園における幼稚園教育の振興を図ることができた。 交付：195,000 円（1 園当たり 65,000 円） ○向日市私立幼稚園特別支援教育振興補助金 障がいのある幼児の円滑な受入れを推進し、教育の充実を図り、適切な保育環境を提供するために、市内私立幼稚園の設置者に対し、障がいのある幼児の特別な教育的支援の実施に要する人件費を補助した。 交付：市内 3 園 3,136,000 円（32 人：補助単価 98,000 円）
担当課	文教課

施策の成果と課題
【成果（生涯学習課）】 ○留守家庭児童会では、年度途中から 5～6 年生の受入れを停止することとなったが、1～4 年生の入会要件を満たす児童を全て受け入れたことで、保護者のニーズに応えることができた。また、施設ごとに必要な修繕を行うことにより、良好な保育環境を保つことができた。 【成果（文教課）】 ○私立幼稚園の設備、備品の整備を促進するとともに教職員の教育研究事業等を支援することにより、幼稚園教育の振興を図ることができた。また、障がいのある幼児を受け入れる私立幼稚園を支援することにより、障がいのある幼児の就園促進及び教育の充実を図り、適切な保育環境の提供を推進することができた。

【課題（生涯学習課）】

○児童が安心・安全に過ごすことができ、保護者も安心して就労することができるよう、各留守家庭児童会において引き続き指導員の確保及び環境整備に努める必要がある。特に、第1留守家庭児童会においては、施設が狭隘であることから、速やかに新たに施設を整備する必要がある。

【課題（文教課）】

○幼児教育の重要性を踏まえ、引き続き私立幼稚園の設置者に対して補助金の支給を行い、幼稚園教育の振興を図る必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○留守家庭児童会については、1年生から4年生の入会要件を満たす児童のすべてを受け入れたこと、また、適宜、施設の修繕を行い環境整備にも配慮されていることは評価できる。さらに、指導員についても様々な研修会を実施し、資質の向上を図っており、今後も継続していただきたい。

○市内私立幼稚園に行われている設備費補助金や教材教具補助金については、教育現場において喜ばれる内容となっており、効果が高い補助金として評価できる。また、特別支援教育振興補助金についても障がいなど支援を必要とする幼児の受入を推進し、適切な教育へとつなげるものとして実施されていることを評価する。幼児教育の振興を図るためにもこれらの補助金について継続していただきたい。

施策番号	9
施策名	スポーツ活動の推進

施策の基本方向 ○スポーツを「する」「みる」「ささえる」を通じたスポーツ人口の拡大を目指し、市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実に努める。
--

事業名	各種スポーツイベントの開催
事業概要	○市民総合体育大会（参加者 746 人）
実績	○スポーツ交流フェア（参加者 1,341 人）
担当課	生涯学習課

事業名	市民体育館の管理運営
事業概要	平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、令和 3 年度から 5 年間の指定管理者に（公財）向日市スポーツ文化協会を指定している。
実績	○体育室稼働率：90.3% ※トレーニング室は健康増進センターに移転のため、令和 5 年 1 月 15 日閉室 健康増進センター内トレーニング室利用者：39,307 人 ○卓球室利用者：5,760 人
担当課	生涯学習課

事業名	スポーツ指導者育成
事業概要	○スポーツ推進委員の育成
実績	研修会の開催（毎月 1 回）、スポーツイベントへの派遣など
担当課	生涯学習課

事業名	学校等体育施設開放事業
事業概要	○社会体育の振興を図るため、学校等体育施設の開放を行った。
実績	<使用回数> ・小学校：体育館 2,179 回、グラウンド 1,777 回 ・中学校：体育館・武道場 863 回 ・向日町競輪場スポーツ施設：69 回
担当課	生涯学習課

施策の成果と課題

【成果】

- （公財）向日市スポーツ文化協会の各種スポーツ教室などを実施し、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実を図った。
- スポーツ推進委員では、「キンボール」や「スリータッチ」などの研究に取り組み、乙訓スポーツ推進委員研究協議会や市民向けの体験会で競技の普及を図るとともに、ハイキングやラジオ体操を行う事業を実施するなど、市民の健康推進とスポーツに親しめる環境づくりに努めた。

【課題】

- 自らの意欲や健康状態に応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、引き続き（公財）向日市スポーツ文化協会や関係機関・団体と連携して事業に取り組み、幅広い年齢層の方々にスポーツに接することができる機会を提供し、スポーツの実施率の向上などを図る必要がある。
- 令和3年3月策定の「向日市スポーツ推進計画」に基づき、市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実を図っていく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 放課後や休日における市内の小学校を見ていると、グラウンドでは子ども達がサッカーや野球を行っていたり、体育館では大人がバレーボールをしていたりと、学校施設の開放がスポーツ推進に果たす役割の大きさを実感するものとなっている。また、各事業の実施状況からもスポーツへの意識を持った人が増えつつあることが伺え、これまでの積み重ねの結果が出ていることを評価する。
- 市民のスポーツ活動を広めるためにもスポーツ推進委員の増加を図り、市民がスポーツに親しめる環境づくりを進めることが大切である。

施策番号	10
施策名	多様性を認め合う社会の実現

施策の基本方向 ○市民一人一人がお互いの人権を尊重し合い共に生きることができるよう、人権について、学び、考え、実践していくことにより、人権という普遍的文化の構築を目指して人権教育・啓発事業に取り組む。
--

事業名	人権研修会
事業概要 実績	市民がそれぞれの状況に応じて、人権尊重の理念に対する理解を深め、これを体得することができるよう、人権について学ぶ機会として開催した。 ○第1回「部落問題と向き合う若者たち」 開催日：令和6年7月26日（金）（参加者数28人） 場 所：永守重信市民会館第1会議室 ○第2回目「誰も取り残されない社会のために～障がいのある人と人権～」 開催日：令和6年12月21日（土）（参加者数22人） 場 所：永守重信市民会館第1会議室
担当課	生涯学習課

施策の成果と課題
【成果】 ○参加者のアンケート結果から、第1回目については、わかりやすかったという多くの声をいただいた。また自由記述欄でも、「部落問題の現状について知ることができ勉強になった」、「インターネット上の情報や無意識で行ってしまう偏見や差別について家庭でも子どもと話をしなければと思った」、「日常、差別していないつもりであっても、無意識に口から（差別的な発言が）出ることを注意したい」との意識改革につながる声もあり、学習の成果がみられた。 第2回目についても、わかりやすかったと多くの声をいただいた。また、自由記述欄からは「これまで障がいのある人と身近に関わることがなく、自分が社会の不便さに気づけなかった。しかし地元の駅にもエレベーターができ、バリアフリーが広がっているのも、障がい者の人とその方々を応援したい人が声を上げ活動してきたからなのだと分かった」、「障がいの原因が本人にあるのではなく、まわりや社会の方にあると気づけた。」などの気づきがあり、学習に成果がみられた。 【課題】 ○アンケート結果には、「自分の子どもが『部落』という言葉を目にするのは今後あるのか？部落という言葉を知ることがなければ差別の話題にならず、知らないまま過ごすことになるのか」、「同和地区を同和地区としなければいいのではないのか」と、知らなければ差別は起こらないのではという感想も寄せられており、継続して人権研修を進めていく必要がある。 ○より多くの参加者に来ていただけるよう、広報はじめ、効果的な方法の検討が必要である。

外部評価委員評価及び意見等

○人権研修については、参加者数も指標の一つだが、大切な内容を行っていることから、参加者が一つでも新たな学びや意識の変化を得られたなら実施している価値があるので継続していただきたい。

○人権研修のアンケートについては、引き続き自由記述欄を設けることが大切である。これは、受講者にとっては記述することで振り返りにつながり、学びを深めることができる。一方で、実施者にとってはどのような学びにつながっているのかを把握する貴重な資料となるため、今後も継続するとともに研修内容の工夫・改善につなげていただきたい。

施策番号	11
施策名	歴史・文化資源の整備と活用

施策の基本方向

○史跡長岡宮跡や史跡乙訓古墳群等市内に所在する文化財の保護及び積極的な整備・活用に努め、歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進し、未来に継承する。

事業名	有形文化財の保護と活用事業
事業概要 実績	○建造物の防災設備維持管理補助 ・ 目 的：国及び京都府指定等文化財（建造物）の修理や防災設備維持管理、災害復旧等に要する経費を補助する。 ・ 補助等：3 事業者 3 事業 247,000 円 ○建造物の防火・防犯 ・ 目 的：国及び京都府指定等文化財（建造物）の適切な管理を図るため、文化財火災予防運動の期間中に、広報活動、消防訓練、消防設備の立入検査等を実施する。 ・ 訓 練：令和 7 年 1 月 26 日（日）向日神社で実施した。 ・ 検 査：令和 7 年 1 月 24 日（金）指定文化財及び登録文化財の建造物に立ち入り、消防設備の点検及び防火意識の高揚を図った。 ○建造物の保護 ・ 向日庵(旧寿岳家住宅)の国有形登録文化財(建造物)への登録 昭和初期に建てられた中廊下型の典型的郊外型住宅であるが、換気及び通気の徹底、造り付け家具の工夫など、住環境に配慮した建築装置が充実している。地区における数少ない昭和初期の住宅として、西向日住宅地の良好な景観を構成する重要な建物であり、国有形文化財の登録を受けた。 登録年月日：令和 7 年 3 月 13 日 名 称：向日庵（旧寿岳家住宅）主屋(おもや) 向日庵（旧寿岳家住宅）門及び土留 員 数：2 所 在 地：向日市上植野町浄徳 10 番地 1
担当課	文教課

事業名	史跡の保護と活用事業
事業概要 実績	○史跡公園整備事業 長岡宮跡大極殿東面回廊地区の保全整備を図るため、埋蔵文化財発掘調査を実施し、その成果を反映した整備に係る工事を行った。 ○史跡の保護 ・ 物集女城跡の国史跡指定

	物集女城跡は、京都近郊に残る数少ない中世城館で、畿内近国の中世の政治経済状況を知る上で重要な遺跡であり、京都府下における中世城館として初めての史跡指定を受けた。 指定年月日：令和6年10月11日 所在地：向日市物集女町中条10番 ほか16筆 指定面積：7,568.45 m² ○史跡等の文化財保存団体への補助 ・目的：市内に所在する史跡等の保存団体が実施する文化活動に要する経費を補助する。 ・補助等：3団体 78,000 円 ○史跡指定地等文化財用地の維持管理 ・目的：史跡指定地等の文化財用地の清掃、除草、樹木の剪定、生垣刈込等を実施し、史跡環境の保全に努める。 ・内容：文化財用地11か所において、延べ118回の維持管理作業を実施した。 ○史跡乙訓古墳群の維持管理 ・目的：史跡指定地等文化財用地の中でも令和元年度に取得した史跡乙訓古墳群の五塚原古墳（37,242.22 m²）及び寺戸大塚古墳（4,380.14 m²）は、保全状況が十分でないため、境界付近の危険木の枝払い作業を実施し、史跡環境の保全に努める。 ・内容：五塚原古墳では、前面道路等隣接地に伸びた樹木の伐採を延べ4回実施した。寺戸大塚古墳では、タケノコの除去や竹の間伐を延べ2回実施した。
担当課	文教課

事業名	埋蔵文化財の保護と活用事業
事業概要 実績	○開発等に係る埋蔵文化財の審査 ・目的：市内の周知の埋蔵文化財包蔵地内で実施される開発等を審査し、必要な場合は保存措置を行う。 ・件数：開発、まちづくり条例に係る文化財審査 33 件 建築確認申請に係る文化財審査 205 件 埋蔵文化財発掘届出書受理 180 件 埋蔵文化財発掘通知書受理 18 件 ○埋蔵文化財発掘調査等事業 ・目的：長岡京跡ほか本市の特色ある埋蔵文化財を保護するため各種の調査を実施する。 ・発掘調査：8 件 1,971.00 m² ・立会調査：157 件（埋蔵文化財詳細分布調査） ・出土遺物：27 箱

	○埋蔵文化財出土遺物保存処理事業 ・ 目 的：埋蔵文化財発掘調査出土品に科学的処理を施し、腐食等の進行を最小限に留める。 ・ 種 別 等：長岡京跡ほか埋蔵文化財発掘調査出土遺物 物集女車塚古墳出土 剣菱形杏葉 3 点（京都府指定文化財（考古資料）） ・ 処理方法：鉄製品 アルカリ性水溶液含浸 銅製及び青銅製 ベンゾトリアゾール溶液含浸 ○埋蔵文化財出土遺物整理分類事業 ・ 目 的：数多くある埋蔵文化財出土遺物を適切に管理するため、国や府の基準に基づき分類整理する。 ・ 内 容：埋蔵文化財発掘調査等の出土遺物を活用度に応じ A～D の 4 種類に分類し、データベースを作成した。 ・ 成 果：令和 6 年度コンテナ 36 箱（447 点） 累計コンテナ 12, 247 箱 累計遺物個体数 75, 804 点 ※点数は活用頻度の高い A、B 分類のみ
担当課	文教課

事業名	文化財の広報普及事業
事業概要 実 績	○史跡長岡宮跡朝堂院公園公開・説明事業（平成 22 年 6 月 22 日開所） ・ 目 的：史跡整備を実施した長岡宮跡朝堂院西第四堂地区に設置した案内所に案内員を配置し、史跡来訪者に対し史跡及び市内の歴史・文化遺産の案内解説を行い、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。 ・ 開園日数：354 日 ・ 来訪者数：6, 118 人（累計来訪者数 98, 549 人） ・ 1 日平均：17. 28 人 ・ そ の 他：市内小学校の学年、クラス単位の地域学習や教職員研修の場として朝堂院公園を活用した。 ○復元体感アプリ「AR 長岡宮」の活用と拡充（平成 26 年 3 月末に配信開始） ・ 目 的：史跡長岡宮跡の理解を促進するため、AR・VR 技術を用いて作成した無料アプリケーションを通じ、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。 ・ 利 用 者 数：377 人（ダウンロード 372 人、貸出タブレット 5 人） ・ 累計利用者：24, 277 人（ダウンロード 18, 981 人、貸出タブレット 5, 296 人） ○復元体感アプリ「墳タビ！物集女車塚古墳」の活用（平成 29 年 3 月末に配信開始） ・ 目 的：史跡乙訓古墳群（物集女車塚古墳）の理解を促進するため、AR・VR 技術を用いて作成した無料アプリケーションを通じ、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。

	・利用者数：186 人（令和 6 年度ダウンロード数） 10,429 人（累計ダウンロード数） ○古代衣装の貸出（長岡京期の衣装 男女各 4 着） ・場 所：朝堂院公園案内所 ・貸出数：12 人 ○史跡乙訓古墳群物集女車塚古墳石室一般公開 ・目 的：良好な形で現存し、保全整備工事が終了した物集女車塚古墳の横穴式石室を広く公開し、史跡乙訓古墳群への理解を得る。 ・期 間：令和 6 年 5 月 25 日（土）～6 月 2 日（日） ・見学者：601 人 ・その他：公益財団法人向日市埋蔵文化財センターでは、石室公開に併せ、小学校でふるさと学習を実施した。 ○市民考古学講座開催事業 長岡宮内裏～内裏正殿の再発掘 ・目 的：向日市の特色ある歴史・文化遺産を題材とし講座を開催する。 ・開催名：古墳時代の王権と淀川水系 ・開催数：講座 3 回と講演会 1 回 ・参加者：講座 89 人（延べ）、講演会 45 人 ○埋蔵文化財調査成果展の開催 長岡宮内裏～内裏正殿の再発掘の最新調査成果展 ・目 的：前年度に実施した発掘調査成果について展示し広く市民に広報する。 ・期 間：令和 6 年 9 月 7 日（土）～10 月 14 日（月）（来館者 1,547 人） ・講演会：開催日 令和 6 年 9 月 16 日（月）（参加者 63 人） 演 題 「日本古代都城における大極殿・朝堂院・内裏-歴代王権の理想像を考える」 ○埋蔵文化財等保管資料の活用 ・出土遺物等資料の貸出 4 機関等に 41 点 ・写真資料提供、掲載等承諾 11 機関等に 51 点 ・保管資料の調査・見学対応 3 機関等に 43 点 ○史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂復元・体感具「ふわふわ！朝堂 in」の活用 ・目 的：史跡長岡宮跡の適切な保全と広報・普及啓発を図るため、朝堂院西第四堂を模した塩化ビニル製の体感具を活用しイベントを開催した。 ・活用日：令和 7 年 2 月 13 日（木） ・利用者：55 人
担当課	文教課

施策の成果と課題

【成果】

○古墳や都城跡が存在する本市特有の歴史・文化遺産を活用して、展示や講座・講演会、見学会などの事業を実施した。特に令和6年度は、本市の北の玄関口の史跡として物集女城跡が京都府下における中世城館として初めての国史跡指定を受けた。さらに西向日住宅地の良好な景観を構成する重要な建物であり、地区における数少ない昭和初期の住宅として、向日庵(旧寿岳家住宅) 国有形文化財の登録を受け、市内指定等文化財が100件となった。こうした事業を実施した結果、市民の文化財保護に対する理解の促進、地域愛の醸成につながり、文化財を核とした地域振興、観光振興に寄与することができた。

【課題】

○本市に所在する特色ある歴史・文化遺産は史跡乙訓古墳群をはじめ、史跡長岡宮跡や重要文化財を有する向日神社、南真経寺が主体となる。地域の歴史を物語る財産、後世に残したい宝として市民の共通認識を育めるような保護施策や、価値を高め広く認知されるような多様な活用施策、また、こうした施策について積極的な情報発信を引き続き行っていく必要がある。

○これまで史跡長岡宮跡や史跡乙訓古墳群など市域の中南部や丘陵部の文化財活用が中心であったが、市域の北部に所在する「物集女城跡」を含めた、市域全体の歴史文化遺産の活用に取り組む必要がある。

○まちづくりに文化財を活かし、より一層地域が一体となって歴史・文化資源の継承に取り組んでいくため、文化財の計画的な保存と活用の促進を図っていく必要がある。そのためには、京都府が策定した「京都府文化財保存活用大綱」を参考に、地域住民の意見を反映した「向日市文化財保存活用地域計画」や「史跡乙訓古墳群保存活用計画」を策定することが有効である。

外部評価委員評価及び意見等

○物集女城跡が京都府下における中世城館として初めて国史跡指定を受けたこと、また、向日庵(旧寿岳家住宅)が国有形文化財の登録を受けたことを評価する。市においても一つの節目となるものであり、重要な歴史資源として保存・活用に取り組んでいただきたい。

○市内には、貴重な歴史・文化資源が豊富にあることから市民への情報発信と啓発に引き続き取り組んでいただきたい。向日市は、他の市町に比して、多くの歴史・文化資源を有している。課題にあがっている保存活用計画についても、策定されることを期待する。

IV 外部評価委員の総評

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づき、向日市教育委員会の権限に属する事務について、令和 6 年度事業分を点検したところ、全体として、限られた予算の中で様々な地域の資源を活用し、質の高い教育委員会の事業が実施されていると評価する。

注目点としては、生涯学習の分野と学校教育の分野が個別バラバラに展開されているのではなく、お互いにどのような事業を行っているのかを知らながら両分野が連携して様々な事業を実施し、成果につなげていることである。

例えば、学校教育の場に生涯学習における出前講座を活用する。学校の職場体験に地域が協力する。生涯学習における人権研修会において学校・家庭・地域が連携するなど、多くの例をあげることができる。

このような取組が定着していることは、生涯学習分野と学校教育分野との「連携」という段階から、より相互に作用し合い相乗効果を高める次の段階へと進みつつあることがうかがえる。

このような事業の展開は、向日市の教育振興計画として位置づけられている「ふるさと向日市創生計画」に定めた施策が、教育委員会において共有されている結果であると評価する。

今後も、どのようにすれば、市民にとってよりよい教育環境を提供できるのかの視点に立って、「ふるさと向日市創生計画」に基づき、教育委員会全体で魅力ある向日市の教育に尽力されたい。